※法話原稿の作成について

□
□　□
□　□
□□「講題」（一頁・四行目）
□　□
□　□
□　□
□　□
□　□

教区　　組　　寺

名前

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□ご讃題（一枚目左・二行目・三マス目から）
□　□
□　（和讃は、四行を用いて記す）
□　□
□　『御聖教名』（註釈版　　頁）
□　□
□　□
□　□

□本文は、二枚目の上から二マス目より書き始める。

●共通２次試験について（布教使課程設置規程施行条例より）

布教使判定員５人・一般判定員５人が審査を行います。

①布教使判定員

・専任講師　２人

・勧学、司教又は輔教を有する布教使　１人

・布教団連合役員又は教区布教団副団長　２人

【審査項目】

一　正しく教学が理解されているか否かに関すること。

二　講題が明確に法話に表現されているか否かに関すること。

三　例話は適切であるか否かに関すること。

四　結論（合法）が適切であるか否かに関すること。

五　伝えるための言葉、話術及び所作が適切であるか否かに関すること。

②一般判定員（僧侶及び寺族以外の者で、次の各号に掲げる者）

・学事規程第２条に規定する大学に在学する者（真宗学及び仏教学専攻の学生を除く）２人（男女１人ずつ）

・年齢30歳以上60歳未満の者　２人（男女１人ずつ）

・年齢60歳以上80歳未満の者　１人

【審査項目】

一　法話の趣旨が明確に伝わったか否かに関すること。

二　法話が知人に勧めたい内容であるか否か又は再度聴聞したい内容であるか否かに関すること。

●注意事項

①講題

布教先では講題を求められることがしばしばあります。講題を設定して表紙原稿表に記入してください。共通２次試験時は、講題をあらかじめ判定委員にお伝えしたうえで審査いただきます。

②丁寧、親切な表現を工夫してください。
・漢字熟語や外来語をできるだけ少なくしてください。
・御聖教の御文の羅列、解説だけでは聞き手に通じません。
・無駄を省き、短いセンテンスを心掛けてください。
原稿用紙2～3行程度で句点(。)がくるように工夫してください。
・文章のリズムにも気を配ってください。
・曖昧にならぬよう、具体的な表現を心がけてください。

③いただいたご讃題については、文言を暗記するだけではなく、その内容についてもよく学習しておいてください。

④板書はできません。

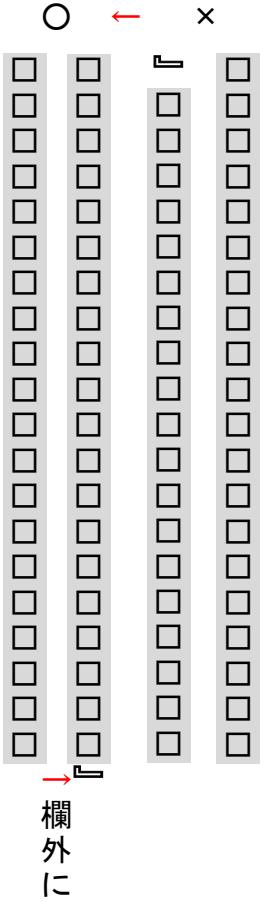
●参考
浄土真宗本願寺派総合研究所ホームページに「布教伝道の基礎」が紹介されていますので、ご一読されることをお奨めします。
＊アドレス　http://j-soken.jp/category/ask/ask_7

●その他
＊欄外上部に、必ずページ数を記入してください。
＊書体はゴシック体で13ポイント以上を使用し、誤字・脱字や略字のないように。
＊数字は、原則として漢数字を用います。　□□□□□
＊横文字は、大文字一マス、小文字二マス使用。(例) Manuscript
＊。、(「【《｛〈「『等は一マスを使い、……は二マス使用。
＊書名のカギカッコは『　』、引文は「　」を用います。
＊各引文は出拠として、聖教名と註釈版の該当ページを記すこと。

＊禁則処理
①原稿用紙の最下部マスに(「【《｛〈「『等が来るときは、そのマスを空白とし、次行の最上部マスに送って記入する。

(例)□□□□□

②次行の最上部に、）】》〕〉」『　、。等がくるときは、前の行下部の欄外に記す。



③・（ナカグロ）は通常の文字として扱う。

＊カギカッコ内最後の句読点は無用です。（例）「　。」↓「　」

（＊小学校教科書の場合は、特例として用いられています）

＊カギカッコ外の句読点は、必要なら用います。（例）「　」。

＊法話原稿として〝話し言葉〟で書いてください。

※原稿は折らずに、１部ごとに右側２点をホッチキスで留めてください。